

テーマ	② 主体的・対話的で深い学びに向けた学習指導（ICT機器の活用）の在り方
-----	--------------------------------------

1 主題名 法やきまり、権利と義務 C（12）規則の尊重

2 ねらいと教材

- （1）ねらい 規則やきまりの意義を理解し、規則やきまりを進んで守ろうとする態度を育てる。
 （2）教材名 「星野君の二るい打」（東京書籍 新訂 新しい道徳 6年）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

本主題は、小学校学習指導要領の第5学年及び第6学年の内容項目Cの「主として集団や社会との関わりに関すること」の（12）「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。」を深めることをねらいとしたものである。6学年は小学校の最高学年として規則やきまりを守ることや、他学年の手本となる行動を取ることが求められる時期である。そのため、日頃から自らの生活態度を振り返り、自他の権利を大切にする意識を養うとともに、教材文の登場人物や周りの友達の行動などにも目を向け話し合うことで、主体的・対話的に学習を進め、集団や社会の一員として規則を尊重する心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

（2）児童の実態と教師の願い（男子15名、女子15名 計30名 令和4年9月8日実施）

	よく当てはまる	少し当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
①規則やきまりを守ることが大切である。	25人	5人	0人	0人
②規則やきまりを守って生活している。	19人	7人	4人	0人
③規則やきまりがなぜあるのか、どういう意味があるのかを理解している。	14人	8人	6人	2人

9月アンケートの結果から、規則やきまりを守ることが大切だと思っている児童が多いことが分かる。また、生活の中で規則やきまりを守ることを実践できている児童も約9割を占めている。このことから、規則やきまりを進んで守ろうとしている児童が多いことが分かる。しかし、その規則やきまりがなぜあるのか、どういう意味があるのかを理解しているという問いに、よく当てはまると回答した児童は14人と、規則やきまりの意義をきちんと理解して生活している児童は少ないことが分かる。

そのため、規則やきまりを守ることには終始するのではなく、規則やきまりの意義についても考えることで集団や社会の関わりについても考えを深めていきたい。さらに、教材の登場人物の考えや行動を通して、これから実際に起こるかもしれない問題においても主体的に解決できるようにして、遵法精神や公德心についても育てていきたい。

（3）教材について

本教材は、野球というチームスポーツを通して、きまりを守るか自分の考えを貫き通すかという心の中の葛藤を、登場人物の心情に寄り添って考えることができるように設定されている。野球の試合中、星野君は監督にバントをするように指示をされる。チームのために自分は犠牲になって得点を取りに行く作戦に、星野君は納得できず監督の指示を無視してしまう。しかしその結果、星野君は二塁打となりチームを勝利に導いた。チームのきまりを破ったけど結果を残した星野君の行動の是非について、様々な意見を出し合い、考えることができる教材である。この教材の特性を活かして、試合中や試合後の星野君の心情の変化を捉えることで、規則やきまりの重要性や意義について考えようとする心情を育てたい。

（4）指導観

導入では、身の回りにどんなきまりがあるか、なぜそのきまりを守らなくてはいけないのかについて考え、規則を尊重することについての問題意識をもてるようにする。展開では、試合中や試合後の星野君の心情の変化を捉えることで、きまりを守ることが自分の中だけでなく周りの人とも関

係があることについて考えを深めさせたい。終末では、きまりを守ることの大切さについて考えるために、規則やきまりが存在する意義や、これからの自分の行動について考えることで、規則を尊重する心情を育てたい。

4 本時の指導

(1) 準備・資料 教科書、タブレット、ワークシート、電子黒板

(2) 展開

	主な学習活動と発問	予想される児童の反応	指導の手立て、評価
導入 5分	1 課題を提示し、規則の尊重について考える。 ○「身の回りには、どんな規則がありますか。」 ○「どうしてその規則はあるのですか。」 規則やきまりの大切さについて考えよう。	・廊下を走ってはいけない。 ・人の物をとってはいけない。 ・けがをしてしまう。 ・相手が困る。 ・犯罪だ。	・考えられない児童には、学校の生活のきまりを想起させる。 ・1つ目の問いに答えた児童に追加発問として聞き、答えられない場合は他の児童に聞く。
展開 30分	2 教材「星野君の二るい打」の範読を聴き、規則について話し合う。 ○ 星野君は二るい打を打って試合に勝った時、どんな気持ちになったでしょう。 ◎ 二るい打を打って活躍したのに、次の試合に出られなくなった星野君はどんな気持ちになったでしょう。	・ぼくの判断は正しかった。 ・打ててよかったけど、作戦を無視してよかったのかな。 ・監督の指示を無視して後悔している。 ・ぼくのおかげで勝ったのに試合に出られないなんて、監督はひどい。 ・作戦を無視したから仕方ないかな。 ・チームの約束をきちんと守るべきだった。	・教師の範読後、教科書をしまい、読み取りにならないようにする。 ・野球の用語について補足する。 ・スカイメニューのポジショニングを使い、星野君の心情をグラフ上にドットで表し、どうしてそう思ったのかをペアで話し合う。 ・電子黒板で全員のポジショニングの結果を提示する。 ・ポジショニングで分けられた考え毎に意見を発表させる。 ・1度目のポジショニングから、ドットを動かし、変化について班で話し合う。 ・1度目と2度目のポジショニングの結果を横並びにして電子黒板に提示する。
終末 10分	3 課題について考え、自分自身のこれからの行動について考える。 ○ なぜ規則は守らなければならないのですか。 ○ 規則についてこれから自分は何に気を付けて行動しようと思いますか。 4 本時の振り返りをワークシートに書く。	・周りに迷惑をかけない。 ・自分や他の人の安全。 ・低学年の見本となるように安全に気を付けて生活する。 ・他の人の気持ちも考えて行動する。 ・なぜその規則があるのかを考えて行動する。 ・規則を守る。 ・きまりがある理由を考える。	・教材のことだけでなく自分の生活体験も振り返るよう声かけする。 ・ワークシート記入後、意見を発表させ、授業の要点を共有させる。 規則やきまりの大切さや意義について自分の考えを深めている。(発言・ワークシート) ・本時の授業で考えた気持ちを一言で表すよう指示する。